

模擬国連会議全米大会
第41代日本代表団派遣事業
ガイドブック

The 41th Japanese Delegation to the National
Model United Nations Conference Project

目次

- 運営統括挨拶
- 全米団派遣事業とは
- 模擬国連会議全米大会とは
- 全米団の活動について

- 渡米前
 - 選考プロセス
 - 団員育成プログラム(DDP)
 - 政策発表会
- 渡米
 - 提携校交流
 - ブリーフィング
 - 全米大会出場
- 渡米後
 - 事業運営
 - 第41代運営局紹介
 - 運営役職紹介

- もっと知りたい全米団！
- Dear Future Delegates
- よくある質問
- HP・SNSのご案内
- 助成財団・後援先紹介

運営統括挨拶

皆様、こんにちは。模擬国連会議全米大会第1代日本代表団派遣事業運営局にて運営統括並びに団長を務めております、慶應義塾大学法学部政治学科2年の大滝怜奈です。

まず、弊事業の活動に興味を持ち、このガイドブックを手にとりいただきありがとうございます。全米団は日本模擬国連の事業の中で唯一、英語で模擬国連を行う全米大会を活動の中心に据えており、弊事業に携わることで、実際に各国大使団の方々が行われている会議に近い体験をすることができます。

これを読んでくださっている方々が様々なバックグラウンドを持っているのと同様に、現在の運営局員も様々な特性や性格を持っており、弊事業に対して感じている魅力や、弊事業の活動から得ているものは十人十色です。日本で行う大会準備の過程から渡米中の大会出場、ブリーフィング、多国籍の学生との交流、帰国後の活動など、弊事業は非常に多様な活動を行っております。

このガイドブックを通じて、私たちが約半年間の団員期を経て感じた弊事業のさまざまな魅力が十分に伝われば幸いです。

2023年8月

模擬国連会議全米大会第38代日本代表団派遣事業
運営統括・団長 大滝怜奈

全米団派遣事業とは

全米団派遣事業とは、日本模擬国連(JMUN: Japan Model United Nations)に所属し、模擬国連活動を行う全国の学生の中から選抜された9名程が、日本代表団としてニューヨークで開催される模擬国連会議全米大会に参加する事業です。当事業は、日本模擬国連の主催事業の1つであり、多くの財団様や企業様、顧問の先生方やJMUN会員の皆様のご支援の下、前年度に選出された派遣団員によって運営されています。1983年に第1代が派遣されて以来、今年で41年目となります。当事業で派遣された日本代表団は、過去参加した大会のうち24回、新型コロナウイルス感染症(COVID-19)拡大のため中止となった2020年を除いた2021年まで13年連続で表彰されており、毎年高い評価を得ております。4年ぶりの渡米が叶った今年は、派遣団員9名がFinland大使として出場し名誉大使団賞にあたるHonorable Mention Delegation Awardを、運営局員4名がNew Zealand大使として出場し最優秀大使団賞にあたるOutstanding Delegation Awardを受賞いたしました。

毎年全米大会に向け、派遣団員は渡米前に団員育成プログラム(DDP:Delegates Development Programme)に参加し、政策立案能力をはじめとした、集団討論やプレゼンテーションのスキルなど全米大会、さらには社会で役立つ能力を身につけます。その後、渡米前の政策発表会にて、自身が全米大会で提案する政策を発表し、顧問の先生方からの助言を基に全米大会へのブラッシュアップや最終調整を行います。渡米中は、提携校の学生と政策調整、全米大会への出場に加え、国連職員や国際連合日本政府代表部の方々からブリーフィングをしていただきます。渡米後は、次期派遣団員を大会に派遣するために、DDPの設計、資金管理、渡米の引率など、ひとつの大きな事業を運営することになります。このような運営の活動も含め、当事業ではここでしか得られない貴重な経験を提供するために努力しております。

また、当事業のOBOGの方は、国連職員、国家公務員、大学教授、弁護士のほか、様々な企業に就職され、国内外問わず多方面でご活躍されています。

模擬国連会議全米大会とは

模擬国連会議全米大会(NMUN: National Model United Nations Conference in New York)は毎年3月下旬から4月上旬頃に、アメリカのニューヨーク市内のホテルと国連本部の会議場を使用して開催される約5日間の模擬国連の世界大会です。

本大会は、世界中で行われている模擬国連会議の中でも世界最大規模を誇る大会であり、アメリカを中心に世界30か国以上から5000人以上の学生が参加します。例年20もの国連機関や国際機関の模擬会議が設定されており、参加者は国連加盟国やオブザーバー、あるいは非政府組織の代表としてそれぞれの会議に参加し、議論や交渉を行います。全米大会は毎年大変な盛り上がりを見せており、国際的な評判も高まっています。

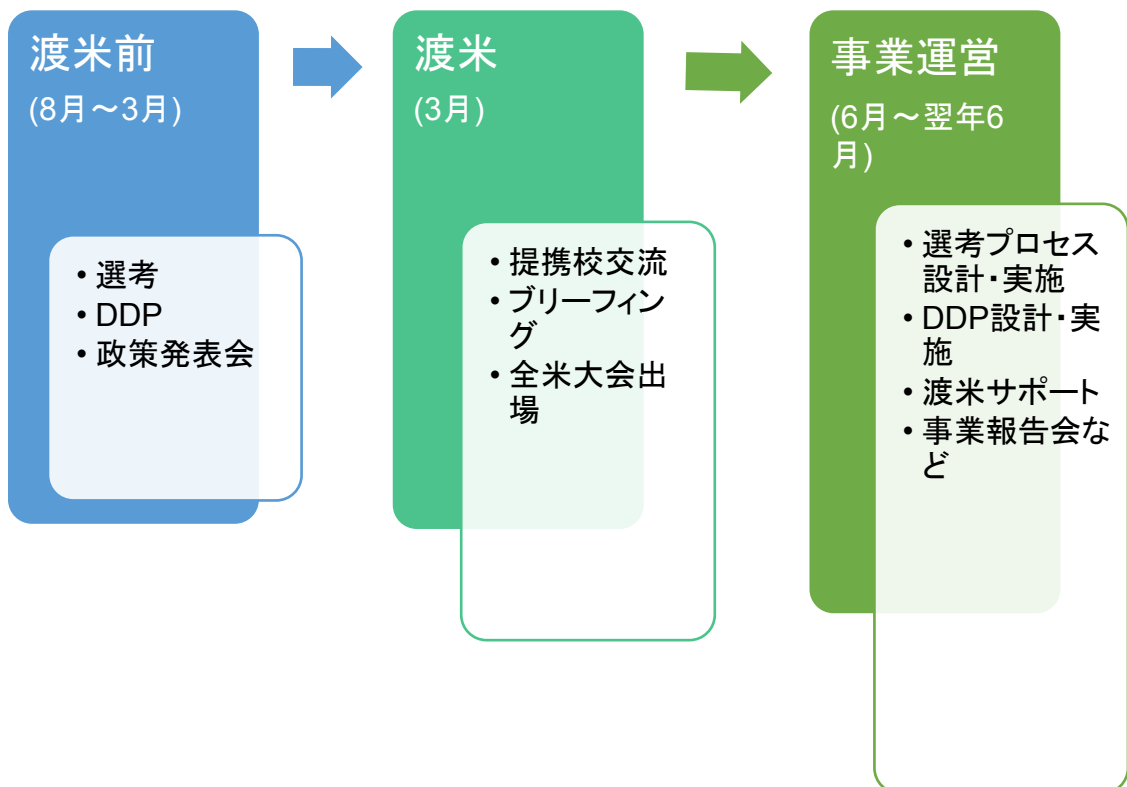
今年度の日本代表団の参加議場は、国連総会の各種委員会や国連開発計画(UNDP)、国連環境総会(UNEA)、国際原子力機関(IAEA)、国連難民高等弁務官事務所(UNHCR)、経済社会理事会(ECOSOC)、人権理事会(HRC)などでした。


全米団の活動について

全米団では、派遣団員(通称:団員)と運営局員(通称:局員)で構成されており、その活動は大きく「団員期」と「局員期」に分けられます。

「団員期」では、選考や全体で行う団員育成プログラム(DDP)を受け、政策発表会などの全米大会に向けた準備期間である渡米前活動を経て、渡米します。渡米期間中には、提携校交流や国連職員の方からのブリーフィングを経て、全米大会へ出場します。

団員としての活動を終わると、「局員期」が始まります。「局員期」では、次期団員の選考、渡米のサポート、また全米団の活動を支えるための渉外活動などの事業運営を学生の手のみで行います。



An aerial photograph of New York City, showing a dense urban landscape with numerous skyscrapers and buildings. The city extends to the water's edge, with the Hudson River and East River visible. The sky is clear and blue.

渡米前
・ 選考プロセス
・ DDP
・ 政策発表会



選考プロセス

～全米団への第一歩～

選考プロセスは例年9月から10月の約2ヶ月にわたって実施されます。例年面接や論文課題、対話型コンテンツなどが選考課題として課されますが、課題の具体的な内容は毎年異なります。また、全米団の選考プロセスは単なる新団員の選抜だけではなく、応募者全員にとっての成長の機会となることが期待されます。選考期間中は優秀な他の応募者と切磋琢磨できるとともに、選考プロセス終了後には応募者全員に対して今後役に立つフィードバックが行われます。

選考プロセス担当より

選考プロセスが実施される2ヶ月間は悩み苦しむこともあると思います。しかし同時に、真摯に自己と向き合い、他者と向き合うことで多くの学びや気づきを得られる充実した期間でもあります。運営局員一同、向上心溢れる皆さんの果敢な挑戦をお待ちしております。

(加納幸希)



A group of students wearing face masks are sitting around a table in a meeting room, working on laptops and papers. The room has large windows with a grid pattern.

団員育成プログラムDDP

～全米大会に向けた準備期間～

団員育成プログラム(DDP)とは、11月の団員選出直後から渡米直前の3月まで行われる、全米大会の参加に向けて団員の能力育成を図るプログラムです。団員はDDPを通して、政策立案に関する体系的な知識・手法や、会議準備のみならず、大会当日も必要な論理的・批判的思考力、コミュニケーションスキルなど様々な能力を磨き上げることができます。体得した知識・能力は、全米大会のみならず、その後の事業運営、その他模擬国連の会議、将来の社会生活にも間違いなく生きてくるはずです。

DDP担当より

渡米までの5ヶ月間は、DDPを中心として考え、考え、また考える非常な濃密な時間になるはずです。質の高いDDPを準備してお待ちしておりますので、大学生活の貴重な時間を全米団、DDPに費やす熱意のある皆さんを心より歓迎いたします。

(大野秀征)





DDP(局員からの声)

団員育成プログラム(DDP)では、問題分析から政策立案までの一連のプロセスを体系的に習得していく中で、自身の論理的思考力や批判的思考力を向上させることができました。また、外部からお招きした先生方からプレゼンテーションやファシリテーションのノウハウをご教示いただいたことは、非常に貴重な経験でした。さらに、運営局員やOBOGの先輩方、先生方から自身の政策に関する客観的かつ批判的なフィードバックをいただいたことは、政策の質をより高めることに大きく寄与しました。

(鈴木将史)

団員育成プログラムは、自分の弱点を知り、それを改善する非常に良い機会になりました。「なぜそれではダメなのか」ということを客観的に批判して頂けたことで、その改善策を模索することができました。そして、DDPで身につけたスキルは全米大会だけでなく、今後、社会で生きていく上でも非常に役立つものとなりました。また、頭の切れる仲間たちと常に切磋琢磨し合えたことも、非常に貴重な経験となりました。

(日下剛志)





政策発表会

～更なる成長へ～

例年2月頃に行われる政策発表会では、弊事業の派遣団員が約半年間をかけて行ったリサーチや政策立案のプロセスを顧問の先生方や他の参加者等の皆様に発表します。専門家の方々などにフィードバックをいただき、2ヶ月後に控える全米大会に向けて最終準備を進める非常に有意義な機会となっています。

局員からの声

政策発表会の前日は緊張で夜も寝られず、果たして自分の立てた政策が評価されるのか不安でした。ですが、本番では自分の成果を発揮することができ、先生方からお褒めの言葉をいただくことができました。政策発表会でしっかりと自分の言いたいことが言えたからこそ、全米大会で自信を持ってスピーチや交渉をすることができたと思っています。

(七海権隆)





政策発表会（局員からの声）

～更なる成長へ～

私にとって、政策発表会は全米大会に向けた準備の中で最初の山場でした。政策を詰めるにあたり、もちろん会議本番でベストな行動ができるよう良いものを作りたいという思いはありましたが、専門家の視点からの鋭い指摘に答えられるように抜けのないものにしたというモチベーションにも支えられていました。当日、顧問の先生方から受けた質問は、まさに自分が政策を考える上で注意していたポイントであり、英語で伝える難しさはあったものの、悩むことなく受け答えできたことが嬉しかったです。

（新村美月）





渡米

- ・ 提携校交流
- ・ ブリーフィング
- ・ 全米大会出場



提携校交流

～全米団から繋がる交流～

弊事業における提携校交流では、全米大会に共に参加するアメリカの大学の学生と親交を深めることを目的としています。2023年度の全米大会に向けて、第40代はマサチューセッツ大学ダートマス校 (University of Massachusetts Dartmouth) と提携し、約5か月間かけて準備を行いました。

ペアとの最初の顔合わせは、提携校と渡米メンバー全体でのオンラインミーティング内で行われました。初めは緊張していましたが、アイスブレイクを通じて提携校の雰囲気を知ることができました。その後、自身の議題についてリサーチを進めながら、各自でペアと情報共有や進捗の確認を行って準備をしました。私は週に1回オンラインミーティングの機会を設け、ペアとの関係を構築するために全米大会に関する内容だけでなく、その週に起きた出来事なども話し合いました。提携校でのペアとの調整では、お互いの不安を共有し、より深い信頼関係を築くことを意識しながら、実際の会議を想定して話し合いを進めました。

選考
プロセス

DDP

政策発表会

提携校交流

フリーフィン
グ

全米大会
出場

事業運営



提携校交流

全米大会での会議中の役割を決める際には、お互いの性格や適性を考慮し、ペアはファシリテーターとなり、私はファシリテーターがカバーしきれない部分のサポートをすることになりました。この5か月間の長い時間をかけてペアとの信頼関係を築くことが全米大会での成功には不可欠だと強く感じました。

また、提携校交流を通して、ペアだけでなく他の学生とも交流する機会がありました。提携校の学生とは、学校のことや趣味、将来や恋愛など、多岐にわたることを話し、自分の人生観を広げることができました。異なる前提や背景、価値観を持つ学生との交流を通じて、自分の世界が狭かったことや物事の考え方の多様性を実感することができました。提携校交流を通じて日本では体験できない経験ができ、語学においても、人間としても成長することができました。

(吉越万莉)

選考
プロセス

DDP

政策発表会

提携校交流

フリーフィン
グ

全米大会
出場

事業運営



ブリーフィング

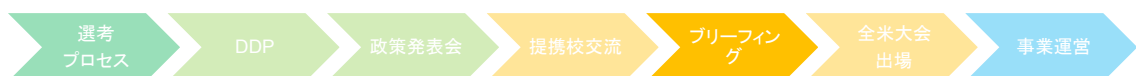
～ロールモデルから得る学び～

提携校交流を終えた派遣団員は、NYへ移動し、ブリーフィング期間に入ります。全米大会が始まるまでのこの間、NYに本部を構えている様々な国際機関を訪問し実際に勤務している方々にお話を伺います。第41代はUNICEF、UN Women、UNDP、そして国連日本政府代表部を訪問させていただきました。実際に働いているオフィスに足を踏み入れ、職場の雰囲気を感じられると同時に、様々な場所で職務経験を積んできた方々から詳しく現場の声を聞ける機会は全米団でしか得られない経験ではないでしょうか。

局員からの声

日本を出て、国連や海外の職場で第一線で働く方々の考えや実際に築きあげてきたキャリアについてお話を聞かせて頂き、非常に有意義な機会になりました。また、漠然としていた自身の将来の夢への解像度が高まると同時に様々な可能性を知ることができました。

(大滝怜奈)





全米大会出場

～世界の学生と外交～

5日間に渡って行われる全米大会は、約3週間の渡米プログラムにおけるメインイベントです。例年、主に会議はニューヨークのホテルにて、閉会式は国連本部にて行われます。2023年度の大会は大学生・大学院生を中心に全米と104の国連加盟国から4602名が参加しました。第40代日本代表団は、フィンランドの政府代表部として各々の会議に参加しました。第40代運営局員・派遣団員は、各会議でペアと協力し、DDPで練り上げた自国の政策を決議案(Draft Resolution)に盛り込み、粘り強く交渉しました。その結果、日本代表団とUniversity of Massachusetts Dartmouthの合同代表団は、最優秀大使団(Outstanding Delegation Award)と名誉大使団賞(Honorable Mention Award)と3つのPosition Paper賞を獲得することができました。





全米大会出場

私は国連総会第3委員会 (GA3: General Assembly Third) に参加しました。GA3では2つ目の議題であるSafeguarding Human Rights of Persons Displaced by Climate Change「気候変動によって避難した人々の人権の保護」が優先して話し合われました。会議の流れとしては、優先議題の採択、グループ形成、コンセンサスという形で行われました。会議の終わりに近づくにつれて、ワーキンググループに所属する国の数も多くなり、意見を反映する難しさや英語で意見を伝える大変さを痛感しました。会場には母語が英語ではない人も沢山いて、英語で話せることは全米大会において非常に重要でしたが、それと同時に非言語要素の果たす役割の大きさに驚かされました。

(吉越万莉)





全米大会の1日

ここでは実際の全米大会のスケジュールや、最終日の成果文書提出までの過程について、ある派遣団員の具体例を交えながら紹介します。

参加議場：

国連難民高等弁務官（UNHCR）

議題：

- ・国内避難民の増加防止
- ・難民の人身売買における保護（優先議題）

9:00AM

中小議場は午後10時、大議場は午後10時半まで会議が続く場合が多いため、実際の会議は午後から始まるのがほとんどでした。

10:00AM

全米大会中は会議以外にも様々なコンテンツが用意されています。初日には様々な大学のリクレーターがそれぞれの大学の学位プログラムなどを宣伝する、Opportunity Fairが行われていました。2日目にはDelegate Seminarと呼ばれる大使講習会が開催され、デリとしての会議行動や全米大会のプロシージャールに関する説明がありました。

一日のタイムスケジュール

9:00AM	起床
10:00AM	Delegate Seminar
1:30PM ↓ 5:00PM	Committee Session
	休憩
6:30PM ↓ 10:00PM	Committee Session
10:15PM ↓ 10:45PM	夕食
11:30PM	就寝





全米大会の1日

1:30PM - 5:00PM

2日目から、本格的なワーキンググループの形成やスタンスの共有が行われました。最初のフォーマルスピーチで、各国が事前に準備してきた自国のスタンスや政策の説明をした後、実際に会場を動き回り交渉をするフェーズに入りました。私は自分の担当国フィンランドが重視する「難民発生国のキャパシティビルディング」と類似した政策を持っていたナイジェリア大使、タイ大使と前日に話をし、一緒にグループを組む約束をしていました。そのためセッションが開始してすぐにナイジェリア大使のもとに行き、持ち寄った政策の共有を始めました。1時間もしないうちにグループは9人ほどに拡大しました。セッションが終わるまでを議論の発散の時間とし、グループ内でも似ているスタンスの大使同士でそれぞれの政策を説明し合い、政策案をドキュメントに書き込み始めました。

5:00PM

最初のセッションが終わり、休憩時間に入りました。大会会場は私たちが宿泊するホテル内にあるため、私は自分の部屋に戻り仮眠をとったり軽食を食べたりしました。中には同じワーキンググループ内で仲良くなった人とご飯を食べにいく人もいました。この時間に私は、同じワーキンググループにいた国のポジションペーパーを読み、彼らのスタンスの再確認などを行ないました。

選考
プロセス

DDP

政策発表会

提携校交流

フリーフィン
グ

全米大会
出場

事業運営



全米大会の1日

6:30PM

2回目のセッションではダイアス(会議監督や議長)のチェックを受けるために、ワーキングペーパーの1次提出をする必要がありました。そのため、持ち寄った政策に抜けはないか、どこか合体させられる部分はないかなどについて考えながら、ワーキングペーパーをブラッシュアップしていきました。

10:15PM

会議が終わったあとはロビーやホテルの空いているスペースで夕食を食べている人々が多く見られました。私は、ペアと一緒に自国のスタンスの確認やそれぞれのワーキンググループの状況確認をしたり、過去に行われてきた政策の事例などを調べて翌日に使えるような情報を集めたりしました。

11:30PM

夕食を終え、部屋に戻ったあとは翌日のために少しリサーチをして、就寝しました。
(大滝怜奈)

選考
プロセス

DDP

政策発表会

提携校交流

フリーフィン
グ

全米大会
出場

事業運営

第40代の参加議場と優先議題



大滝 怜奈

参加議場: 国連難民高等弁務官事務所 (UNHCR)

優先議題: Preventing the Increase of Internally Displaced Persons



吉越 万莉

参加議場: 国連総会第三委員会 (GA3)

優先議題: Healthy Ageing and Age-friendly Sustainable Development



岩瀬 彩良

参加議場: 国連総会第一委員会 (GA1)

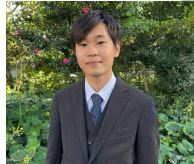
優先議題: Youth for Disarmament, Non-Proliferation, and Peace



新村 美月

参加議場: 経済社会理事会 (ECOSOC)

優先議題: Promoting Access to Affordable, Reliable, Sustainable, and Modern Energy for All



七海 権隆

参加議場: 国連環境総会 (UNEA)

優先議題: Strengthening Actions to Achieve Sustainable Development Goals (SDG) 14



加納 幸希

参加議場: 人権理事会 (HRC)

優先議題: Combating Discrimination and Intolerance against persons based on religion or belief



大野 秀征

参加議場: 国際原子力機関 (IAEA)

優先議題: Strengthening Safeguards For the World's Nuclear Facilities



鈴木 将史

参加議場: 国連総会第二委員会 (GA2)

優先議題: Minimizing Economic Shock In a Globalized Economy



日下 剛志

参加議場: 国連開発計画 (UNDP)

優先議題: Climate Change Adaptation



渡米後 ・事業運営

*Sphere within Sphere, 1995/96
By. Atsuhiko Komuro*

GIFT OF ITALY
1996

事業運営

帰国後、派遣団員は当事業の運営の担い手となります。財団や企業様、顧問の先生方やOBOGの方々などとの繋がりが深い当事業の運営を通じ、国際問題の社会的認知の推進、模擬国連活動の発展、国際社会において活躍する人材の育成を目指しています。以下運営の大まかな流れを説明します。

事業報告書作成・事業報告会:5月～6月

渡米を終えた派遣団員は団員期の経験を支援してくださっている多くの方々にお伝えするべく、事業報告書を執筆し、その後事業報告会を開催します。そしてこの事業報告会をもって派遣団員は運営局員となります。

選考プロセス:8月～10月

次代の選抜に向けて、選考プロセスの設計を行います。例年9～10月に選考プロセスを実施し、10月下旬ごろに次代派遣団員を決定・発表します。

団員育成プログラム(DDP):11月～3月上旬

派遣団員の決定・発表後、新規団員が全米大会で最大限の力を発揮できるように、運営局員が団員育成プログラム(DDP)を設計費、渡米までの約5か月間実施します。

次代派遣:3月下旬～4月上旬

運営局員は日程調整や諸手続きなど、次代派遣団の渡米を計画し、引率や渡米中の日本との連絡なども担います。

運営交代:6月

大会を終えた次代団員は帰国した後、事業報告会をもって代替わりを行い、運営局員はOBOGとなり後輩を見守ります。



第41代運営局紹介

運営局では各局員が役職に就き、協力しながら事業運営を行います。以下は第41代運営局員と各役職の紹介です。

役職名	氏名	所属大学・学年	所属研究会
運営統括・団長	大滝怜奈	慶應義塾大学2年	日吉研究会
副団長・渉外	吉越万莉	青山学院大学2年	四ツ谷研究会
総務	岩瀬彩良	東京外国語大学2年	国立研究会
会計・事業報告書	新村美月	慶應義塾大学2年	日吉研究会
英語DDP・渉外補佐	七海権隆	上智大学2年	四ツ谷研究会
選考プロセス	加納幸希	国際基督教大学2年	駒場研究会
DDP	大野秀征	慶應義塾大学2年	日吉研究会
研究	鈴木将史	慶應義塾大学2年	日吉研究会
企画・広報	日下剛志	大阪大学2年	神戸研究会



運営役職紹介

全米団派遣事業の運営は、渡米前準備や渡米と並ぶ当事業の魅力の1つです。運営局員としての任期は渡米後1年間に渡り、渡米準備と渡米を合わせた期間よりも長くなります。運営局として協力し業務を遂行する上で、運営局員はそれぞれ役職を持ちます。その決定方法や兼職の仕方などは代の方針や各自の研究会での役職によって多少異なりますが、業務を通じて、個人が運営局員として各役職において必要とされている技術・能力を向上させることで将来の活躍へとつなげます。

運営統括

全ての役職の仕事の進捗状況の確認、必要に応じたサポートを行います。また、全国大会でのスピーチを含めた様々な機会で全米団を代表した挨拶や挨拶文の執筆も仕事です。渉外先へ挨拶に伺ったり、代表者会合へ出席したりもします。

団長

渡米に関する事前準備と次代団員の渡米の引率を行います。事前準備は提携校探しや提携校とのミーティング、航空券の手配、フリーフィンク調整、全米大会運営側とのやり取りなど多岐に渡ります。渡米の引率では団員の安全とスケジュールの管理が仕事です。

副団長

運営統括・団長が不在時には代表代理を務めたり、運営統括・団長を含めた全ての役職や団員のサポートを行います。また、代表団渡米期間中には、日本の全米団運営局と保護者との連絡係を務めます。



運営役職紹介

総務

運営における事務的事項の総括を行います。各種資料を作成し印刷したり、選考前のガイドブックの作成をしたり、全米団の必要備品や全米団主催イベントの会場の手配を行ったりします。ロジスティックス作成やメーリングリストの管理も仕事です。

選考プロセス

選考プロセス実施・運営の総括を行います。具体的にはコンセプトやコンテンツ内容、採点方法などを決定したり、採点集約を行ったりします。また、アプライ者全員へフィードバックシートを作成することも仕事です。

研究

選考プロセス担当の補佐として、各種選考課題の具体的設計を行います。また必要に応じて、団員育成プログラム(DDP)の作成や実行の補佐も行います。

団員育成プログラム(DDP)

DDP運営の統括を担います。DDPの考案から企画、決定まで行います。また、団員の全米大会に向けた準備の進捗管理も仕事です。

英語DDP

全米大会出場に向けての英語面でのサポートを行います。DDP内で団員の英語力向上を目的としたコンテンツを企画して実施したり、英語レッスンを行います。



運営役職紹介

会計

全米団運営費の管理を行います。年間予算の作成などを行ったり、団費の領収書の管理をしたりします。また、航空券手配や宿泊施設予約など渡米に関する事前準備も仕事です。

渉外

外部団体との連絡を行います。渉外先への書類を郵送したり、電話やメールの対応をしたりします。渉外活動を実行したり、渉外先の新規開拓を行ったりすることも仕事です。

渉外補佐

省庁・国連機関への後援申請や新たな顧問の先生との契約、後援先とのやり取りなどを行います。それに伴って必要な各書類の作成や渉外担当のサポートも仕事です。

企画

OBOG会、政策発表会、新歓説明会、渡米報告会などの企画、運営を行います。また、メーリングリストの管理や会報誌の配信を通してOBOGとの連絡を取ることも仕事です。

事業報告書

事業報告書の作成を行います。原稿執筆依頼を含めた原稿の管理、印刷業者との連絡が仕事です。英語報告書作成も主導します。

広報

全米団の活動の広報を行います。HPを作成して更新したり、FacebookなどのSNSツールを活用したりします。また、OBOG名簿やメーリングリストの管理も仕事です。



もっと知りたい全米団！

ここまでガイドブックを読んでみて、全米団とはどのようなものかなんとなく分かっていただけたでしょうか？この「もっと知りたい全米団！」では、全米団についてより深く知っていただけるよう、第1代局員にインタビューをしました！是非お読みください！

Q1.全米団にアプライしたきっかけは？

新村: 高校から模擬国連をやっている友達に教えてもらいました。全米団のことを知って入りたいと思ったから日本模擬を始めた、という経緯です。国際問題を議論するのに日本だけに閉じていていいのかという疑問を感じていたことと、学生時代に何か継続して大きなことを成し遂げてみたいなと思っていたことの2つが応募したきっかけです。

日下: 実は全米団を創設なさった方が自分の大学の教授で、笑その教授から、全米団の魅力として、学生時代の仲間が一生ものの友人になったというお話を聞いて、アプライしようと思いました。

七海: 自分が帰国子女であるため、英語で模擬国連をしたいと思ったからです。アメリカのニューヨークに住んでいたこともあり、里帰りの気分で自分の実力は海外でどの程度通用するのか試したいと思いアプライしました。英語を話したいのが主な理由です。

鈴木: 世界中から集まる大学生と国際問題について英語で議論してみたいという思いが強くありアプライしました。また、国際機関で実地経験を積まれた方々にブリーフィングを通して直接お話を伺うことができる機会に大きな魅力を感じたこともアプライを決めた理由の一つです。

もっと知りたい全米団！

Q2.DDPを通して最も成長したことは何ですか？

新村: 自分の意見の根拠を問題の出発点から順序立てて論理的に説明できるような思考法を学べたことです。これまでは浮かんだ意見を述べてそれを後から正当化していくことが多かったのですが、一つずつ合っていることを確かめながら分岐点を進んでいく感覚が新鮮でした。全米大会に向けた準備はもちろんのことながら、研究など、長期的に取り組むべきものにおいて特に重要な考え方を学べたと思っています。

日下: 交渉がとても苦手だったのですが、様々なアドバイスを頂いて、少し交渉が得意になったことです。

七海: 自分の考えを整理する方法です。問題をしっかりと整理することで、どれが最も解決するのが難しいのか・解決する可能性があるのかが分析できるようになりました。

鈴木: 問題分析から政策立案までの過程で用いる手法や考え方を体系的に習得し、より論理的かつ批判的に思考できるようになったことです。

もっと知りたい全米団！

Q3.全米大会を通して学んだこと印象深かったことはなんですか？

新村:日本って言語的にも地理的にも世界から見るとawayなんだなということですよ

日下:アメリカ人のワイルドさ。笑 色々な国の人たちがいて、色々な価値観をもらって、それがとても刺激的でした！

七海:改めて、自分は日本人ではないかもしれないという点です笑、同じ議場で出来た友達とは今も連絡を取っており、今度ディズニーに行ってきます(実に13年ぶり)。

鈴木:異なる価値観を持った他の国の人たちと一緒に協力することの楽しさです。

Q4.全米団に所属して良かったと思うことはなんですか？

新村:素晴らしい仲間を持てたこと！自分が渡米するだけでなく、その後運営という形で次の代に関われるところも貴重だなと思っています。

日下:優しくて、刺激的な一生の友人ができたこと。

七海:政策立案だけではなく、仲間たちと事業を運営するという難しさを学んでいる点です。まるでNERV。

鈴木:優秀で個性豊かな同期や先輩方と出会えたこと。

もっと知りたい全米団！

Q5.全米団の雰囲気はどのような感じですか？

新村:個性が激しくぶつかり合う場所です

日下:第2の実家感

七海:黒ずくめの組織(謎多き組織)

鈴木:皆で助け合いながら困難に立ち向かっていく「ガンバと15匹の仲間たち」のような雰囲気です

Q6.全米団を一言で表すなら？

新村:自分の世界を広げてくれる場所

日下:愛ですね。

七海:新世紀エヴァンゲリオン 第壱話「使徒、襲来」

鈴木:絆



Dear Future Delegates

大滝 怜奈

(Reina Otaki)



運営統括・団長

Prosperity - the state of being prosperous

これは私が常に見返せるようにしている言葉です。Prosperousという言葉には、隆盛や成功という意味が含まれます。私は大学生という、限られつつも非常に自由な時間をprosperityに繋がる時間にしたいと思いました。

派遣団員として活動していく中で、日本にいる期間とアメリカにいる期間では質の異なったprosperousな日々を過ごせると思っています。全米大会では世界中の学生と実り多い議論を行うことができます。共にprosperousなゴールへ向かって話し合う経験は本当に貴重なものです。日本での活動では、高い志と能力を持った同年代の学生とともに、学校でのプロジェクトなどとは比にならないほどの時間と労力をかけて協力をすることが求められます。感化されたり感心したりすることばかりで、彼らのスキルや能力を吸収しつつも自己修養をしている自分自身がprosperityに向かっていることをしみじみ感じます。

第41代運営局はもちろん、そして過去40年間弊事業の一員であった方々も大学生という、「人生最後の夏休み」とも呼ばれる期間をprosperousなものにしようとし、それぞれの将来の第一歩として弊事業に携わってきたのではないかなと思っています。将来の派遣団員やアプライを迷っている方には実りある大学生活を送ってほしいと思うと同時に、弊事業はその実を提供できる事業だと自信を持って言うことができます。

第41代運営局はこれからの一年半をprosperousなものにしようと努める学生をお待ちしています。

吉越万莉

(Mari Yoshikoshi)



副団長・渉外

驚馬十駕

学生はあっという間に時間が過ぎていきます。そして学生の頃に経験したことは、自己のアイデンティティの確立に必ず繋がります。その時期に優秀な仲間と物事を成し遂げる経験を積むことは、人生において大きな糧となるでしょう。

全米団に入ると、徹底的なリサーチや問題分析と政策立案を長期間かけて行い、その期間には、思考能力の壁のみならず精神面でも壁にぶつかることとなります。運営局員の方や同期の派遣団員と一緒に全米大会に向け苦難を乗り越える経験は、全米団で得られる大きな魅力の一つではないでしょうか。渡米期間中の国際機関でのブリーフィングでは、学生を終えた後自分は何を目指していくのかについて考えさせられました。団員期を終えると、たった9人で運営を回していく必要があり、人間関係の難しさ、人間の限界をととても実感させられます。しかし、それを把握したうえで信頼できる仲間と勇往邁進できることは、私を人間的にも能力的にも成長させてくれる貴重な機会となっています。私には決して飛び抜けた才能はありませんが、自分が成長できる環境や自分に刺激を与えてくれる人に出会いたいと思い、全米団での選考では自分なりに最大限の努力をしました。

是非このガイドブックを読んで、全米団でしかできない経験を得る機会に挑戦したいと思っていただけたなら幸いです。皆様の中間地点が全米団であってもなくても、納得のいく選択ができるよう心から祈っております。

岩瀬彩良

(Sara Iwase)



総務

Stay different.

これは、私が高校時代から大切にしていることばです。

私は幼いころから「普通とは違う」と思われたり言われたりすることが多い人生を送ってきました。そのため「普通になりたい」と思うことも山ほどありました。しかし同時に、皆が同じような方向を向いて進む「普通」に違和感を抱き続け、他人と同じじゃつまらない、何か違うことがしたいと考えてきました。

そんな中、全米団という事業に出会い、「ここなら他の人とは違うことができるかもしれない!」と感じて応募することを決めました。

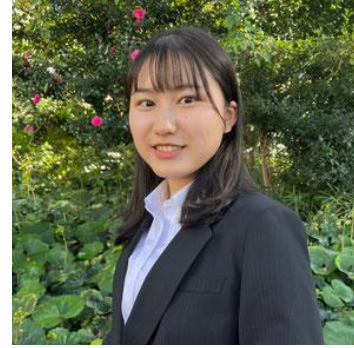
私が全米団で出会った仲間や先輩はみんな、それぞれ個性を持っていて、誰一人として同じ人はいませんでした。渡米期間中に出会った提携校の学生やブリーファーマーの方々、全米大会で出会った学生もそうです。彼らは良い意味で「普通」ではなく、自分という存在を貫く気持ちと備わっている個性が輝いて見えました。この経験をしたことで、「普通でなくていいのだ」という確信を持つことができました。

私自身も、全米団に入ったことで自分のもっていた個性を伸ばし、また自分でも気づかなかった個性を見つけることができましたと感じています。全米団で用意されているコンテンツは、団員の個性や得意を伸ばし、また自分と向き合う機会を多く含むため、今まで知らなかった自分の一面を見つけることができると私は思っています。

今このガイドブックを読んでいる方の中には、私のように「普通でない」ことで悩んでいる人も、「普通」であることで悩んでいる人もいます。しかしみなさんには必ずそれぞれ輝く個性があるのです。ぜひそれを全米団に来て実感してほしいと思います。個性を活かし伸ばすことができる全米団に、すてきな個性の種を持ったみなさんが来てくださることを願っています。

新村美月

(Mizuki Shimmura)



会計・事業報告書

1年前の夏、大学生があまりにも自由に使える時間が多いことに戸惑っていたことをよく覚えています。趣味を追求するもよし、友達と遊ぶのもよし、好きな勉強を極めるもよし。普遍的な正しい過ごし方なんてものではなくて、一人一人が自分の使いたいように時間を使うことができる貴重な期間。

「私が大学4年間でやりたいことは何か？」

こう問いかけた時に、大学で何か大きいことを1つやり遂げたいという気持ちがあることに気がつきました。無為に過ごすには勿体なさすぎるだけの時間とチャンスをせっかく持っているのだから、活かしたい。けれど、すぐに全米団へのアプライに踏み切れたわけではありませんでした。2年間もの活動をやり遂げることができるのか、本当に自分がやりたいことはこれなのか、そして自分が団員として選ばれる可能性は果たしてあるのだろうか、応募要項を目の前に悶々とする日々が続きました。

「正解の道を選ぶのではなく、選んだ道を正解にしていく」

そんな時に、この言葉に出会ったのでした。どの選択が正しいのかはやってみないと分からない。大切なのは何を選択するかではなく、選択した後あと自分がどう行動するか。アプライをするという選択が正解かどうかを悩む必要はありません。その選択がどう転んでも、自分にとって糧になるように行動すればいい話なのです。だったら、「これ、なんかいいかも。」そう動いた心に素直に従って行動してみてもいいのかな、と気持ちが楽になりました。あの時アプライをするという選択をしたことは、今の私にとって間違いなく正解でした。こう言い切れるのは、全米団で出会える素晴らしい仲間、先輩方、先生方に加え、その環境を活かそうとし続けてきた自分がいるからです。

このガイドブックを手にとってくださっている皆さんであれば、何かしら全米団に魅力を感じてくれているのだと思います。皆さんが、全米団の世界に一步踏み出す決断をし、そしてそれを自分各自の正解にするような行動を取ろうと思って下されば、とても嬉しいです。

七海権隆

(Yoshitaka Nanaumi)



英語DDP・渉外補佐

「行きなさい！シンジ君！誰かのためじゃない！あなた自身の願いのために！」

某超有名アニメのセリフをお借りしまして改めて自己紹介をさせていただきます。エヴァ好きの七海権隆です。海外に住んでいた際に英語が全く話せず落ち込んでいた時にこのセリフを聞いて感動したのを覚えています。この後、全く勉強をしなくなったことは親には内緒にしておいてください。

しかし、このガイドブックを最後まで読んでくださり、アプライを考えてくださっている方々は自分のようなナマケモノではなく、シンジ君のような困難に立ち向かうことのできる選ばれし子供たちなのです。

過去や未来を心配するのではなく、今自分に何ができるのか、何を一番したいのかを考えて常日頃行動することで人は成長できるのではないのでしょうか。全米団は自分にこの機会を与えてくれています。

全米団にて選ばれし皆様をお待ちしております。

加納幸希

(Miyuki Kano)



選考プロセス

“あいだ”

『動的平衡』という本を書いた生物学者の福岡伸一博士をご存知でしょうか。「物事の本質というものは、要素としてのモノ自体ではなく、モノとモノのあいだで織りなすコト」であると福岡博士は言います。つまり大切なのは、ある“出来事”という存在ではなく、その“あいだ”（より時間の流れを意識するのであれば過程）にある思考や気づきであると考えられるのではないのでしょうか。

全米団での1年の活動を通し、全米大会や政策発表会といったイベントはもとより、全米団の魅力はそれらに向かって思索し続ける“あいだ”の時間なのだと感じています。渡米に向けた政策立案で頭を悩ませたり、プレゼンテーションを試行錯誤したり、帰国後に今後の進路について深く考えたりなど、それぞれの出来事の“あいだ”に存在する葛藤や悩み、発見こそが自身の成長につながるのだと思います。

さて、今皆さんはどのような気持ちでこのガイドブックを読んでいるのでしょうか？なぜ興味を持ったのか、何を達成したいのかなど、出来事の“あいだ”にあることに想いを巡らせてみてください。それでは選考プロセスでお会いできることを楽しみにしております。

大野秀征

(Shusei Ono)



DDP

高校3年生の春に初めて全米団の活動を知ったとき、私は模擬国連と国連に対する漠然とした憧れを覚えました。それから受験、入学、様々な激動の日々を経て、選考に応募したあの瞬間、そして選考を通過したことを知った瞬間は、今でも脳裏に焼き付いています。

「考えて考えて考えて、なお考える」。

これは全米団での日々を表す言葉です。政策を立案する過程では、論理的で体系だった考え方を学び、実践します。全米大会本番では、批判的に考え、それを言語化することが求められてきます。そして、これらの経験が局員期に生きてくることになるのです。悩むことも、迷うこともあります。それでもなお考え、迷いながらも行動した先に、自分なりの答えがありますし、全米団としての答えがあるはずです。がむしゃらに考えて走り続ける今は、私にとって大変貴重で、有意義な経験であると確信しております。

全米団での毎日は日々忙しく、知的好奇心を刺激する様々な出来事で満ち満ちています。そんな日々の中で、言語の別を問わず、ひたむきに考えることに挑戦していこうと考える人こそ、ぜひ、全米団の門を叩いてみてください。

「叩き、考え、さらば道は開かれん。」

鈴木将史

(Masashi Suzuki)



研究

Where there is a will, there is a way.

意志あるところに道あり。これは、リンカーン大統領が残した有名な言葉です。

このガイドブックを読んでいる皆さんの中には「選考」という大きな壁を前に諦めかけている人もいるかもしれません。私自身、去年の選考を振り返ると、途中で思考が行き詰まり諦めかけた時もありました。しかし、全米団に入りたいという強い気持ちがあったからこそ、最後まで諦めることなく選考を突破することができました。

全米団員が持っている強みは千差万別です。そして、皆さん一人一人にも何かしらの強みがあるはずです。ですから、全米団に入りたいという強い意志を持っているのであれば、まずは自分に自信を持ってアプライすることをおすすめします。そして皆さんそれぞれの強みを発揮しながら、強い意志のもと最後まで諦めずに走り続けて下さい。リンカーン大統領の言葉にもあるように、どんなに困難な道であってもやり遂げる意志さえあれば必ず道は開けるはずです。皆さんと全米団でお会いすることを楽しみにしています。

日下剛志
(Tsuyoshi Kusaka)



企画・広報

「試練は乗り越えられるから与えられる」

これは自分が受験期に恩師から頂いた言葉です。どんなに大変なことでも、諦めなければ必ず道は開ける。そして、乗り越えるという表現には、壁を越えた先に何かがあるようなインプリケーションもありますね。さて、これを読んでいる皆さんは、「人生変えたい」って思ったことはありますか？

おそらく自分のように、「人生を変えたい！」「何か新しいことに挑戦したい」と思って、全米団の入団を考えてくれている人もいないのでしょうか。もちろん英語が好きで、とか、海外に行きたくて、など様々な動機を持ってくれている人もいるでしょう。きっかけは何であれ、何かに挑戦するというのは非常に素敵なことです。だからこそ決して初心を忘れずに最後まで諦めないで頑張ってもらいたいと思います。中には、「英語が苦手で…」とか「人前で話すのが苦手で…」と思う方もいるかもしれませんが。ですが、諦めない心があれば必ず克服できますし、その先には今まで見えなかった景色が広がっていることでしょう。

紅葉焚く秋の空の下、あなた方と出逢えるのを心待ちにしています。
I hope your dreams come true 😎

よくある質問

Q. 渡米費用はどれくらいかかりますか？

例年、協賛してくださる財団様、企業様、JMUNのご支援も含めて自己負担金が25万円前後で渡米します(現地での食費や生活費は含まれていません)。なおこれはあくまでも参考であり、毎年参加費は変動します。

Q. DDPや事業報告会で東京に行く回数はどれくらいですか？

代によって異なりますが、例年全員が東京に集まる回数は団員期、局員期合わせて10回程度です。昨年度は感染拡大防止に配慮しながら東京にて対面で活動を行いました。

Q. 倍率はどれくらいですか？

例年2~3倍です。

Q. 英語力はどれくらい必要ですか？

全米大会出場を前提としているため、英語で書かれた文章を理解でき、スピーチや海外の学生との議論、交渉を英語で行える程度の力が必要です。また、アメリカの提携校のペアと共同で準備を進めるため、英語でのコミュニケーション能力も重要です。しかし、選考プロセスにおいて、応募者の方の英語力だけでなく多様な能力を総合的に考慮します。また、英語力を向上させるコンテンツをDDP内でも実施しますので、自分の英語力に自信がない方でも諦めずにアプライしていただきたいです。

よくある質問

Q.選考プロセスの情報が欲しいです！

基本的に選考プロセスに関する情報は全米団のホームページや公式Facebook、Twitter、LINE@、全米団メーリングリストでお知らせしています。現時点でお知らせできる情報は以下の通りです。

【選考日程概要】

7月下旬: 応募要項公開

8月1日: 応募開始

8月末: 応募締め切り

9月~10月頃: 選考プロセス実施

10月末: 団員発表

選考への応募、及び選考課題の概要に関する詳細は、公式HPにて公開されている応募要項に記載されておりますので、そちらをご確認ください。

Q.全米団についての情報はどこから手に入りますか？

基本的には全米団のホームページや公式Facebook、TwitterなどのSNSで発信しています。

その他、疑問点やご相談がありましたら、SNSを通じてお気軽にご連絡ください。また、お知り合いの全米団員にもお気軽にお声がけください！

HP・SNSのご案内

全米団公式HP

<https://nmun-jpn.jimdo.com/>

全米団公式Instagram

https://www.instagram.com/japanmun_nmun/

全米団公式Twitter

https://twitter.com/japanmun_nmun

全米団公式Facebook

<https://www.facebook.com/jpn.to.nmun/>

協賛財団・企業様

以下敬称略

公益財団法人 双日国際交流財団

公益財団法人 三菱UFJ国際財団

日米友好基金 (Japan-US Friendship Commission)

後援団体様

以下敬称略

国連工業開発機関(UNIDO)東京投資・技術移転促進事務所

国連広報センター(UNIC)

外務省

文部科学省